

地質情報展 2025 くまもと： 「博物館の所蔵資料紹介パネル」「県の石」 展示報告

西田 範行¹

1. はじめに

2025年9月13～15日に熊本市の熊本城ホールで開催された「地質情報展 2025 くまもと」で、当館から「博物館所蔵資料の紹介パネル」2枚及び「県の石」4点を展出了したのでご報告します。

2. 所蔵資料紹介パネル

①「有明海から引き揚げられたミエゾウ(ステゴドン属)の歯」(第1図)

当館の地質展示室で、最も目を引くのが、ミエゾウの近縁種(あるいは同種)とされる中国のコウガゾウの全身骨格模型です。体高が3.8m、牙の長さが3mあり、来館者はその大きさに圧倒されてしまいます。

実際に化石として産したのミエゾウの臼歯の一部です

が、これは、主に河川堆積物からなる佐伊津層(後期鮮新世～前期更新世)が、有明海の海底で波に洗われ、偶然産出した化石を漁師が網で引き揚げたものと考えられています。

②「プレートに乗って運ばれてきたメガロドン(二枚貝)石灰岩」(第2図)

メガロドンはテチス海に棲んでいた厚歯二枚貝で、この化石が日本で初めて発見されたのは球磨川沿いの後期三畳紀の石灰岩層(三宝山帯)からでした。その後、日本各地の三宝山帯の石灰岩から同様の化石が見つかり、これらは南半球の火山島周辺でできた石灰岩が、プレートに乗ってはるばる大陸の縁まで運ばれたものであることがわかりました。当時は、日本にプレートテクトニクス理論が広がり始めた時期でもあり、それを後押しする意味でも貴重な発見となりました(県指定天然記念物)。



第1図 博物館所蔵資料紹介パネル①。



第2図 博物館所蔵資料紹介パネル②。

¹ 熊本市立熊本博物館 〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町 3-2

キーワード: 博物館, 紹介, 県の石, 地質情報展 2025 くまもと



第3図 「県の花」の展示物。阿蘇溶結凝灰岩（左上）、鱗珪石（左下）、肉食恐竜の足跡化石レプリカ（右上）、肉食恐竜の歯化石レプリカ（右下）（レプリカの原標本はいずれも天草市立御所浦恐竜の島博物館所蔵）。

3. 県の花

日本地質学会が選定した熊本県の「県の花」から4点を出展しました(第3図)。

岩石：溶結凝灰岩

標本：阿蘇溶結凝灰岩

採集地：熊本市北区龍田(白川右岸の礫)

鉱物：鱗珪石(トリディマイト)

標本：鱗珪石

産地：熊本市西区石神山

化石：白亜紀恐竜化石群

標本：① 肉食恐竜の足跡化石(レプリカ)

② 肉食恐竜の歯化石(レプリカ)

産地：① 天草市御所浦町弁天島 ② 同町外平

(いずれも原標本は天草市立御所浦恐竜の島博物館所蔵)

4. 来場者の反応

当館のブースは入り口付近にあったことで、多くの来場者に最初に足を止めて見ていただくことができました。

「県の花」のコーナーでは、特に恐竜の足跡や歯の化石(レプリカ)に子どもたちの人気が集まりました。ただ、来場者の多くが「県の花」の存在自体を知らなかったため、今後、知名度を上げる努力をしなければいけないと思います。また、パネルでメガロドンの説明をした際、隣のブー



第4図 展示物の解説の様子。

ス(GSJ)に展示されていた実物のメガロドン石灰岩(宮崎県椎葉村産)を見せると、皆、メガロドンの大きさや産状(密集)に驚き、当時の堆積環境への関心が一気に高まっていました。改めて実物の持つインパクトの大きさを感じさせられました。

なお、来場者の中には、当館で行われた「応援プロジェクト」に参加したことがきっかけで来場したという方も多数おられ、改めて一連のイベントがつながり合って「地質好き」の裾野を広げていることを実感しました。

とても有意義な3日間でした。

NISHIDA Noriyuki (2026) The Geoscience Exhibition 2025 in Kumamoto: Exhibition report on introduction panels of collection owned by the Kumamoto City Museum and stones of "The Kumamoto prefectural stone".

(受付：2025年10月14日)